

# 八戸工業大学 同窓会報

第6号  
 3月・9月発行  
 八戸工業大学  
 同窓会本部事務局  
 TEL  
 0178-25-8027  
 FAX  
 0178-25-6183

## 感性デザイン学部 誕生

平成十七年四月、八戸工業大学に新しい学部、感性デザイン学部が誕生します。

本学は、昭和四十七（一九七二）年の開学以来工学部の単科大学として、工学部六学科と大学院工学研究科四専攻を擁するまでに発展してきました。このたび、これからの時代に求められる感性デザイン能力を養成する新しい学部として、感性デザイン学部感性デザイン学科を開設します。定員は七十名で、普通科文系を含めた幅広い分野の高校生を対象に、特に女子の募集に力を入れていきます。新学部の誕生により、本学は理系の工学部と文系の感性デザイン学部という二学部七学科体制で、教育内容を大きく広げた複合大学となります。

### 感性デザイン学部が目指すもの

現代の社会は、これまでの工学技術による大量生産と効率性優先のシステムから、心の豊かさ、快適さ、優しさなどの人の感性を重視した、人に優しいデザインと地域の個性を活かした方向へと移り変わっています。これからの時代

が求めるのは、社会の変化に即応できる感性を持ち、創造力や企画・立案能力などのデザイン能力を兼ね備えた人材だといえます。これに即応するのが感性デザイン学部です。感性デザイン学部が目指すのは、①社会の変化に即応できる知的柔軟性、②新たな視点から新たな構想を生み出す力、③国際化

などに適応した多様なコミュニケーション能力などを重視した人材の育成です。

### 感性デザインとは？

感性デザイン学部は、学部としては全国初になります。学科名としては、山口大学と東海大学にありますが、いずれも工学や情報系の理系学科であり、文系の内容



本当に求められているものは何かを追求しながら、「産業」と「生活」の橋渡しをする人材を育成するのが感性デザイン学部です。

を中心とした教育を行う感性デザインコースは全国で初めてとなります。感性デザインとは何でしょうか。人が何かに触れたとき、その

イメージを掴み取る心の働きを感じるといいます。感性とは、人が何かを感じ取ったとき、心の中にかかるすべての思いのことです。一方、デザインは「心をカタチにする」、「伝えたい思いをカタチにする」こと、本学部では、ものをつくること、他に企画や制作、立案することもデザインという言葉で表しています。感性デザインとは、人を理解し、思いやり、その心をカタチにして創造的に相手に伝えることなのです。

感性デザイン学部の教育内容は、「福祉・健康」「くらし」「創造・表現」「コミュニケーション」の四分野を軸としており、少子高齢化や産業構造の変化が進む現代社会の実態を学びながら、地域社会や生活者のニーズに即応する企画・立案、表現法などを身につけます。さらに、どの分野でも感性を磨くための体験型学習を重視しており、海外研修や芸術鑑賞、自己表現や作品制作コンテスト、福祉施設ボランティア、乗馬・ゴルフなどの生涯スポーツ体験などを通して、実践的に感性デザイン能力を身につけます。

### 充実した就職支援と 国立大並みの学費

本学では、きめ細かい就職指導により常に高い就職率を誇っています。感性デザイン学部でも、キャリア・プランニング科目での進路選択支援や長期インターンシップ（職場体験）のほかに、福祉仕環境コーディネーターやCG・マルチメディア検定などの資格取得をサポートします。また、国立大学法人と同程度の学費で海外も含めた各種学外研修を実施していきます。

### 支部活動 秋田支部設立

六月十五日、秋田市において「同窓会秋田支部」の設立総会が開催された。支部長に明珍勲氏（土木工学科／昭和五十五年卒）を選出し、役員人事と規約が承認された。総会には本学から六名が出席し、この日集まった同窓生三十名と旧交を温めあい、本学同窓会の三つ目となる支部の発足を祝った。今年度の本学同窓会支部活動は、去る四月十日に昨年発足した「北海道支部同窓会の集う会」が札幌市で、五月二十二日に第三回目となる「東北支部同窓会の集う会」が仙台市で開催された。両支部の同窓会には本学から教職員が多数出席し、当日集まった同窓生たちは恩師を囲んで互いの近況を語り合うなど終始和やかに歓談し、盛会のうちに終了した。

# 機械情報技術学科 蒼峰会だより

【挨拶】

機械情報技術学科 学科長

齋藤 正博

昨年十月から機械情報技術学科の学科長を務めることになった齋藤です。二〇〇〇年四月に、高橋学長先生に声をかけて頂き、民間企業の東芝から移って来ました。東芝では、原子力関係の業務に従事していました。家族ともども横浜市から八戸市に移り住み五年目です。八戸市の活性化と八戸工業大学のそして機械情報技術学科のより一層の飛躍のため尽力する所存です。よろしく願います。

前学科長の加賀拓也先生は、この三月に退職され、四月一日付で八戸工業大学名誉教授の称号を授与されました。先生は、引き続き、非常勤講師として機械システム工学専攻の大学院生および機械情報技術学科の学生に対しご専門の流体力学関係の講義を行っていただきます。また、流体実験室でナノ水車（発電用超小型水車）の研究を続けられています。加賀先生はいたって元気であり、今でも機械情報技術学科を拠点として活躍されています。

次年度文系の学部（感性デザイン学部）が新設されますが、機械

情報技術学科は、引き続き工学を明確にした教育を行っていきたくと考えています。ひとところ、3

Rとか言われ、機械を代表とする工学が嫌われました。また、安い労働力を求め、アジアに生産拠点を移す日本企業の動きがありました。しかし、今、日本の経済を牽引しているのは自動車産業であり、それに続く製造業です。資源を持たない我国を支えるのは、も

のづくりであり、工学であり、技術力です。機械エンジニアという人材が我国を支え続けます。機械情報技術学科は、ものづくりをベースとしたいわゆる機械屋を育てていきます。機械屋はどんな企業でも必要とされています。小職は、長年企業勤めをしていましたので確信を持って言うことができません。もちろん、IT技術(情報技術)も必要です。家庭にまでパソコンが浸透している現在、役所や企業のオフィスでは、文書は電子化され、連絡や報告の多くが電子メールで行われています。テレビ会議が急速に普及しています。機械図面もCADが主流になりました。今の学生は、T定規を見たこと

もありません。設計から製造、販売までのあらゆる分野でコンピュ

ーターが関与する時代になりました。このようなIT技術を当たり前に使いこなせる機械エンジニアの育成が目標です。今年、ITルームを全面改装し、講義その他に

PCを駆使できる教育環境を整えました。二つの階段教室に、大型のスクリーンとプロジェクターを常備し、学生のプレゼンテーション能力を高める講義室としての機能を充実させました。教室へのエアコン設置も推進しており、教育環境は充実してきました。平行して、JABEE活動を積極的に推進（大黒先生の報告記事に詳しく載っています。）し、あらゆる面での教育改革にチャレンジしていきたいと思っております。そのためには、日々変化する社会や企業のニーズの把握が必須です。同窓生の皆様のご協力をお願いします。

インターネットを開けばおおよその最新の情報を見ることができますが、最前線、現場からの生の声はどうしても必要です。機械系同窓会の蒼峰会と機械情報技術学科の教職員が一体となり、皆様の後輩を育てていこうではありませんか。八戸の近くにおいでの際は一声かけてください。ぜひ立ち寄って下さい。元気な姿を見せ、生の声を聞かせて下さい。機械情報技術学科は、より一層機械系同窓会の蒼峰会との連携を深めていきたいと思えます。同窓生の皆様のご

健勝とご活躍を祈念いたします。

JABEE認定書を手に、  
右・齋藤 正博 学科長  
左・大黒 正敏 教授



機械情報技術学科・創生工学コースのJABEE認定について

機械情報技術学科・教授

大黒 正敏

同窓生の皆様にはお元気で御活躍のことと推察致します。一九八四年に機械工学科に講師として着任以来、早いもので二十年が経過し、学科の中では古株となつてしまいました。さて、この会報でもしばしば話題になりますJABEEに関して、本学科（創生工学コース）も二〇〇三年度に認定を受け、翌年五月に正式認定プログラムとして公表されました。二〇〇二年に加賀学科長（当時）より指名を受け、学科内のJABEE対応の自己点検ワーキンググループ長として活動してきましたので、今回は実地審査当日の状況等について御報告したいと思いま

す。

JABEEとは日本技術者教育認定機構のことで、大学などの高等教育機関の教育プログラムが社会の要求水準を満たし、国際的にも通用する技術者の養成が可能であるかを審査する機関であり、JABEE認定を受けた教育コースを修了した者は修習技術者という資格が与えられ、国家資格である技術士の一次試験が免除されるものです。機械及び機械関連分野では、全国でわずかに十六大学の十八コースが認定されていますが、東北・北海道地区では本学と山形大学だけが認定を受けています。

機械情報技術学科では、JABEE受審のために数年の準備期間を経て、二〇〇三年十月二十六日から二十八日の三日間にわたって実地審査を受けました。審査チームは審査委員長、審査員二名およびオブザーバー三名の計六名で構成され、実地審査では学習・教育目標の妥当性や、各講義科目に関して、シラバスの内容と成績評価が適正に行われているかを確認するために試験答案等の点検が行われ、さらに授業参観や教育・研究施設の視察、卒業生・在学生との面談、機械情報技術学科所属全教員との面談等、きめ細かい審査が行われました。審査結果によれば、本学科が以前から推進しているパソコン組立て、エンジン



# 環境建設工学科 シビル会通信

## JABEE 技術者教育プログラム 修了証授与式

解剖実習、モデルロケット打上げやロボット創作といった体験学習や種々のプレゼンテーションが、高い評価を受けた一方で継続的に改善を要する事項も指摘されましたが、致命的な欠陥はなく、認定される見込みであることが明らかに、一同で安堵の胸をなでおりました。

今回認定を受けた創生工学コースは、もともと機械情報技術学科カリキュラムを基本にしており、必修科目を増やすなどとして、卒業要件とは別にJABEEの要求する条件を満たすようにしたのですが、創生工学コースを履修するかどうかは、あくまでも学生の意志を尊重しています。したがって、同窓生の皆さんが受けた教育もJABEE認定以前から国際水準を満たしていると自負しています。

今回の審査では、学科教職員のみならず全学的な御協力をいただきました。とりわけ、御多忙にもかかわらず、審査チームとの面談に御協力いただいた皆様に本紙面を借りて心より感謝申し上げます。JABEE認定を継続的に受けるには、本学科の教育内容が適正であるか、社会のニーズに添っているか否かも重要な判断要素であり、同窓生諸氏の忌憚ない御意見も大切で、あらためて今後とも皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成十五年学位記授与式前日の三月十九日(金)、本学AVホールにおいて、高橋燦吉学長はじめ関係者らが参列し、本学で初めてとなるJABEE認定技術者教育プログラム修了証の授与式が行われた。環境建設工学科の庄谷征美学科長の挨拶の後、高橋学長から和文と英文からなる修了証が、修了生六十名を代表し小泉瞳美さんの手渡された。



須田熙特任教授  
(写真上右)  
佐藤敦久名誉教授  
(写真上左)

二〇〇三年度  
土木学会  
功績賞を受賞

四月二十八日

(水)、東京都内のホテルで開かれた第九回土木学会通常総会の席上で、本学科の須田熙特任教授と佐藤敦久名誉教授に土木工学の進歩や事業の発展などに多大な貢献した会員に贈られる「二〇〇三年度土木学会 功績賞」が授与されました。両先生は、本学の環境建設工学科(旧 土木工学科)の教授

E修了生は、申請により『技術士補』の資格が得られ、規定の経験年数を経た後には『技術士』への道が拓かれる。この優位性をぜひ生かして活躍してほしい。」と激励の言葉が述べられ、修了生たちは「胸を張って社会に出て行きます。」と感激を新たにしていた。

環境建設工学科では平成十四年度(二〇〇二年度)の卒業生よりJABEE技術者教育プログラムの認定を受けており、これまで百六十四名がプログラム修了生となっている。

### ● 新任の挨拶



環境建設工学科  
教授 武山 泰

四月に教授に採用いただいた武山と申します。よろしくお願ひします。前職は東北大学大学院情報科学研究所人間社会情報科学専攻人間社会計画学講座交通制御学分野の助教教授でした。所属の名称がやたらと長いのですが、その前身は

土木工学科の道路工学講座で、道路工学、交通工学の領域を専門としています。その中でも特に、舗装工学と交通環境が主な研究分野です。舗装工学の中では舗装管理システムに関する研究を重点的に行っています。近年、社会資本マネジメントあるいはアセットマネジメントなどと称されて盛んに研究が進められている分野です。また、交通環境の分野では道路環境アセスメント、特に大気汚染について調査・研究を行っています。東北大学に在職中には、タイにあるアジア工科大にJICAから派遣されて二年間教育・研究にあたり、東北大学に移る前には建設省(現国土交通省)に勤務していた、そこから岐阜県に出向して県職員をやっていたり、つくばにある土木研究所で研究員を務めていた経験などもあります。今後は、みちづくりを核とするまちづくりや土木史とよばれる土木の歴史についても活動や研究の領域を広げていきたいと考えています。青森は初心者ということで、機会をみつけてはあちこち見て歩いているところです。また、八戸に来てから長らく中断していたテニスを再開しましたし、冬にはスキーも再開しようかと考えているところです。それから、特筆してほどではないですがMacintoshユーザで、前の大学では大学内のユーザグループの代表



環境建設工学科  
講師 金子 賢治

とかもやっています。ごたごたと書き並べましたが何か接点があれば気軽に声をかけてください。新しい輪が広がって共同研究とかもできればいいと考えています。その他の情報などはホームページ(<http://www.civil.hi-tech.ac.jp/~takeyama/>)のリンク先などに記載していますので覗いてみてください。

### ● 八戸工大に赴任して

私が八戸工業大学に赴任してから二年半が経とうとしています。静岡県浜松市出身で大学時代は仙台で過ごした私が、ご縁がありましてさらに北の地である八戸でお世話になっていきます。ここでは、私の略歴と本学に赴任してからの二年半を振り返って感想等を述べたいと思います。

平成十三年三月に東北大学大学院工学研究科土木工学専攻博士後期課程を修了した後、一年間同大に助手として勤務し、平成十四年四月に八戸工大に赴任しました。地盤工学および応用力学(計算力学)を専門としており、現在は地盤工学関係の講義を主に担当しています。また、コンピュータを用いた数値計算を主なツールとして地盤材料の力学特性を解明す

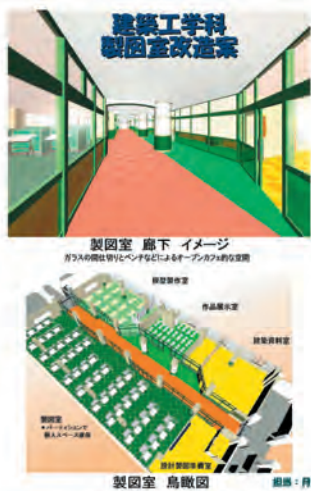
るための研究を学生時代から行っている。本学に赴任してからは、北東北地域の地盤特性に関する研究や地盤環境問題に関する研究などにも取り組んでいます。

私が本学に赴任した平成十四年度は、環境建設工学科が全国の大学に先駆けてJABEE(技術者教育認定機構)認定を取得するための審査の年でした。会議の席ではJABEEに関しての予備知識が殆ど無い私にとっては、何のことも分らない言葉が飛び交っていました。が、学科教員間の熱心な議論を目の当たりにすることで、学科教員の教育に対する熱意や一致団結して審査へ向かうチームワークを肌で感じる事ができました。このような最初の印象は二年半経った現在でも同様で、十四、五人の教員陣で学科運営を行うという非常に小さい組織ですが、風通しが良く、私にとっても非常に仕事のしやすい環境だと感じています。また、二年半を振り返って、本学の学生は非常に素朴かつ素直で人間的に優れた学生が多いと感じています。ただ、もう少し机に向かう時間を増やし、もう少し視野を広げてくれば完璧かな、と思っています。最後にになりましたが、八戸工業大学が今後ますます発展するように、教育・研究に精一杯頑張っていきたいと思しますので、皆様、よろしくお願い致します。

# 建築工学科 拓北会

## 建築工学科棟 改造工事

建築の世界でもCADが一般化し、建築確認申請も電子申請が原則となりました。しかし、建築士試験の製図は未だ『手描き』と実務とかけ離れた状況が陥っています。CAD教育は五年前から試行し、昨年から本格化し、社会的要請に対応する試みを続けています。しかし、建築工学科棟も建設から二十七年が過ぎ、特に平成四年暮れ三陸はるか沖地震以後に雨漏りが発生するなど老朽化が目立ってきました。特に講義室・製図室はパソコンが導入される以前のままであり、IT・CADを応用した現代的建築教育を行う上で大きな課題となっていました。



夏休み中に改造工事を進めて、後期からは開放的な製図室に生まれ変わります。(モデル図参照)

製図室改造のコンセプトは、かつて南部赤松林であった大開の地を切り拓いて設立した八戸工業大学開学の精神に倣って、『積雪寒冷地の厳しい風土で育まれた節くれ立って脂も多いが日本で最も丈夫な針葉樹である南部赤松のようを育成する製図室』です。具体的イメージは、廊下を幹(未来、製図室等各室を枝や葉に見立てています。廊下側間仕切りはガラス貼り、製図室廊下中央にはアルコーブを設けるなどパサージュ的なオープンカフェ的な空間に生まれ変わります。製図室はローパーティションによるセミプライベートな製図作業空間とし、将来の全面的CAD化に対応できるように電源等を確保しています。また、

実際の建築設計教育に必要な棟型製作室・作品展示室も確保しました。九月二十四日(金)から一般公開する予定です。生まれ変わった建築工学科棟を見に来てください。

(月舘 敏栄)

## 【渡邊研究室】

改修再生建築をテーマに学外研究古い牛舎を改修して「ものづくり工房」に再生する建築実習を、渡辺研究室の卒業研修生を中心にして行った。この「ものづくり工房」は、山形村の自然体験学習交流施設パータラー村(木藤古徳一郎村長)の新しい拠点となるもの。この学外実習の特徴は、建築に求められる一連の作業(計画・設計・施工)を、渡辺研究室の「改修再生建築」をテーマに実践することにある。



牛舎二百五十㎡の構法は、電柱古材を用いた掘っ建て構造で、外壁は波板のプラスチック板とトタン張り。本年度は、手始めに施設正面の妻側外壁を改修した。デザインコンセプトは、牛舎を自然豊かな山村に調和する「ものづくり工房」に変身させること。耐震補強を兼ねて、太めの縦胴縁を新たに組み込み、カラマツ五分板下見張りの仕上げ。都市建築では望めない本格的な構法である。

## 近況報告 坂本磐雄



九州並の暑さから一転して秋の気候となりました。同窓生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて、私は

論文ではなく、平易な文と澤山の図を使用した著書としてまとめたかと考えております。退職後の二年間で仕上げる計画です。本学在任中に出版社を内定できればいいなど思っております。三年後を期待して下さい。

## ● 新任教員の紹介



名前：宮腰 裕幸  
所属：役職：八戸工業大学建築工学科講師

出身：北海道江別市(札幌市の隣、準札幌扱い)  
年齢：昭和四十五年生まれ三十三歳(戊午)  
四月に八戸に来たばかりの教員の研究室です。所属学生もいな



い、一人っきりの研究室です。建築の話に限らず、世間話から人生相談まで何でも話せますから、ぜひ研究室に顔を出してみてください。珈琲くらいならご馳走できるかもしれません。コンピュータ（ハード・ソフト）購入に関する相談も歓迎です。

●新任職員の紹介

名前：高島幸典 (Takashima Yukihiro)

所属・役職：八戸工業大学建築工学科技術職員

出身：青森県八戸市  
年齢：昭和三十四年生まれ四十五歳（亥年）

# エネルギー工学科 OB会通信

■「着任の「あいきっ」



エネルギー工学科・生物環境化学工学科 小林正樹 先生

この四月、エネルギー工学科・生物環境化学工学科講師として着任しました、小林正樹と申します。同窓生の皆様にご挨拶申し上げます。これまでは、仙台は東北大学におりました。

まず八戸についてですが、明るい、というのが第一印象です。初めて八戸を訪れたのは、昨年十二月、採用に際しての面接のと

本年四月に建築工学科の技術職員として、学生部就職課より配置換えとなりました。事務職から技術職への異動ということで、最初は面食らいましたが、就職課配属前は、本学土木工学科（環境建築工学科）で技術職員として二十一年間勤務した経験もありますので、何とか建築工学科に学生と教職員の皆様の足を引っ張らないようがんばっております。また、就職課での経験を生かし、就職支援の一助となればと思っております。進路等に関する相談などありましたら、お気軽に顔でも出してみてください、歓迎いたします。

きでしたが、本八戸駅からタクシーで大学へ向かう中街並みを眺めながら、「へー、これが八戸か。青森か。全然イメージと違うなあ。（なかなかいいじゃないか）」と思っていました。青森に対しては、北国の忍耐強いやや沈鬱なイメージを抱いていましたが、それが虚像だということがわかり、それは今でも変わっておりません。私は出身が長野の雪深いところですが、寒い地域には共感、安心できるものがあり、本校を就職先として選んだのも一つにはそれがありません。

す。化学工学と言っても特に近年はその対象が広がっていきまが、その中でも熱移動、物質移動、流体、数値シミュレーションを得意としております。最近では化学工学もやや古めかしい学問領域と見られる感もありますが、プロセスという考え方は産業において製品化などをする場合には必ず現われるものであり、現象をモデル化・定式化してその量論を考えるセンスは重要です。それが学生達にわかってもらえよう教育に当たっていききたいです。

●「私の近況」

（株）富士通東北システムズ 江口 則地（平成三年卒・六期生）

皆さんこんにちは。エネルギー工学科六期生の江口と申します。この度、私の近況を記す機会をいただきましたので、今に至るまでの雑多をご紹介します。

入社してすぐは研修を兼ねて「富士通(株)」に向。後にエネルギー工学科卒業ということもあってか、茨城県東海村にある「日本原子力研究所東海研究所（以下原研）」で外来研究員として研究者のお手伝いをさせていただきました。原研での主な仕事は、研究者の方が作成した核融合炉内の流体解析シミュレーションプログラムの最適化や、スーパーコンピュータで解析するためのベクトル化（最適化の一種）、計算結果を可視化するなどでした。あわせて、電子メールシステム構築やネットワークの構築等にも携わることができました。また、折しもインター

大学を卒業したのは一九九一年三月でした。卒業と同時に(株)富士通青森システムエンジニアリング（二〇〇四年七月に合併し社名を「富士通東北システムズ」と変更）に入社、現在は同社において「インターネットサービスペロバイダー7-11-j.com」の運用管理やネットワーク、情報セキュリティ関連の仕事をしています。

私が同社に入社する切っ掛けとなったのは、学生時代に触れたコンピュータに興味を持ったためです。もともと学生時代のパソコンの使い道はもっぱらゲームであり、勉学の足しだとかゼミの課題をこなすなどの崇高な目的は微塵もありませんでした。

入社してすぐは研修を兼ねて「富士通(株)」に出向。後にエネルギー工学科卒業ということもあってか、茨城県東海村にある「日本原子力研究所東海研究所（以下原研）」で外来研究員として研究者のお手伝いをさせていただきました。原研での主な仕事は、研究者の方が作成した核融合炉内の流体解析シミュレーションプログラムの最適化や、スーパーコンピュータで解析するためのベクトル化（最適化の一種）、計算結果を可視化するなどでした。あわせて、電子メールシステム構築やネットワークの構築等にも携わることができました。また、折しもインター

ネットが産声をあげた時であり、ネットワークの革命が起きようとするときでもあり、これらのネットワーク技術は、私が今まで抱いていたコンピュータのイメージを一新させ、大きな期待と可能性を感じるものでありました。

非常に実りあった原研での外来研究員生活も三年で終わり、一九九五年には青森に帰社し、上司との面談の中で「何か青森でやってみたい仕事はあるか？」という問いかけに私は迷わず「これからはマルチメディアとインターネットの時代です」と答えました。これが運の尽きか、この業界には「言い出しつぺの法則」があり、それから私のプロバイダー管理者生活が始まったのは言うまでもありません。

私達がプロバイダーを始めたのは一九九六年三月であり、青森県初、全国的にもまだそれほど多くの企業が参入していなかった時代であり、先駆的なところもありました。始めたころは使用機器の性能や信頼性も低かったため、トラブルも多く、何度かシステムがダウンする夢を見たものです。今では運用技術やシステムの性能・信頼性も大幅に向上し、今日のブロードバンド、インターネットを支えるまでになっています。

現在のインターネットを見るに、ユーザーも増え続け、仕事にも生活にもなくてはならない存在

# システム情報工学科 うみねこ会ネットワーク

## ● 第二期生八十九名が卒業、 新入生九十三名が入学

平成十六年三月二十日学位記授与式が行われシステム情報工学科第二期生八十九名が学士（工学）の学位を取得しました。それぞれ八戸市役所や（株）タイコーシステムエンジニアリング、八戸工業大学大学院電気電子工学専攻などに就職または進学し活躍しています。また、四月には平成十六年度の入学式が行われ、新入生九十三名が入学しました。出身地は、青森県はもちろん北海道から富山県や栃木県、茨城県まで様々ですがシステム情報工学科の一員として共に勉強やサークル活動などに励んでいます。

## ● 第一期生の齊藤克治君が 八戸工業大学同窓会副会長に就任

第一期生の齊藤克治君が八戸工業大学同窓会の副会長に就任しました。齊藤君はシステム情報工学科同窓会「うみねこ会」の会長も務めており、兼任することになりました。

## ● 第二回うみねこ会開催

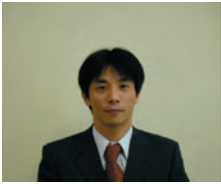
昨年引き続き、第二回うみねこ会を開催しました。今回は会場に大学を選びました。なぜかと言いますと、うみねこ会開催日は大学の祭の初日であり、夜には八戸工業大学の全学科合同の同窓会が開催されるからです。後日、参加確認の案内を皆さんに送りたいと思います。また、具体的な内容も同封いたしますので、たくさんの方の参加を待っています。

平成十六年度より新しく山口講師、伊藤助手が赴任しました。山口講師は、専門が物理学ですが高度なネットワークの知識と技術も持っています。また、伊藤助手は、本学科で待望していたコンピュータグラフィックスの専門家です。

会場：八戸工業大学 大会議室  
（学生食堂下の3F）  
日時：十月二十三日（土）  
十二時〜十六時（予定）

## ● 新任の先生の一言

山口講師  
これまで他大学、専門学校、そして企業と（転職は好きではないのですが）様々な職場で勤めてきました。元々の専門はプラズマ物理学と呼ばれる分野（計算機シミュレーションによる研究）ですが、前職では全国規模のIPネットワークの設計と構築を行ってきました。これらの経験を活かしながら（ただし過去の経験にとらわれないで）、情報技術を学び活用する楽しさを、後輩の皆さんに伝えていきたいと考えています。



山口講師



門分野はコンピュータグラフィックスです。現在、CGはさまざまな分野に利用されており、非常に興味深く、楽しい分野です。コンピュータ支援による写実的な画像生成技術、自然なアニメーション表現などの研究を行っています。また、部活動ではサッカー部のコーチをしています。

新採用ということもあり、至らない点が多数ありますが、これから八戸工業大学でたくさん教員としての経験を積んでいきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

## ● 和田先生、嶋脇先生が 本学科へ異動

平成十六年度より、総合教育センターから和田助教、電子知能システム学科から嶋脇助教が異動となり、システム情報工学科の教職員は二十二名になりました。

## ■ 和田助教



同窓の皆さん、こんにちは！「体育の和田」ですと言った方が分かりやすいかな？

## ■ 嶋脇助教



この四月、学内異動により電子知能システム学科からシステム情報工学科へ配属換えとなりました。

平成十六年八月、うみねこ会のホームページが更新されました。これまでは、充分とはいえない内容でしたが、新しく更新されたホームページでは「最新情報」や「活

## ● うみねこ会ホームページ更新

平成十六年八月、うみねこ会のホームページが更新されました。これまでは、充分とはいえない内容でしたが、新しく更新されたホームページでは「最新情報」や「活



動記録」など様々なコンテンツを閲覧できます。

今後、学外からもうみねこ会の活動状況が分かるように最新のニュースを掲載していきます。また、より内容を充実させるために新しい項目も増やしていく予定です。下記URLまでアクセスしてみてください。

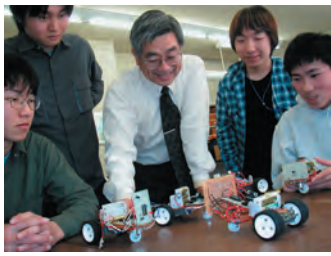
http://www.ngy.hi-tech.ac.jp /umineko/

# 電子知能システム学科 水交会ニュース

## 研究室探訪

### ● 小松崎研究室

当研究室で行っている研究テーマは、大きく「フuzzy理論を応用した制御系設計法の開発」と「知能ロボットの開発・製作」の二つがあります。特に、「知能ロボットの開発・製作」は、卒業研究として学生と一緒に実施しております。具体的には、「案内用知能ロボットの設計と製作」、「鳥



害防 獣用ロボットの開発、「教育用ロボットの開発」を行っています。案内用知能ロボットの設計と製作、「鳥

## ● 訃報

本学科二期生の佐々木和貴君が四月三十日に亡くなられました。ご家族から大学に連絡があり、五月五日、苫米地先生、清野先生、同級生の斉藤勇起君ほか大学院生六人ほどが、葬儀に参列しました。心からご冥福をお祈りいたします。

内用知能ロボットは、タッチパネルやGPSを搭載し、質問に回答できるようなロボットで電子知能システム学科への訪問者用に考えております。鳥害害防止用ロボットは、かかしに知能を持たせ、鳥害と知恵比べしてみようと思っております。教育用ロボットは、本学学生の初心者用の教育に開発した知能ロボットをさらに小中高生用に改良し、ロボットを中心に「もの作り」の楽しさ、電気・情報・機械工学の基礎知識を学ぶものです。これは、三戸教育委員会主催の「おもしろ工房」で実施しております。

### ● 神原研究室

当研究室では、仮想現実感と画像処理技術を使ってロボットの知能化へと応用する研究を行っています。



います。単なるロボットというのには、決められた行動や予定された行動しかできないものを指します。それに対して、知能ロボットというのは、センサで外界が変化する様子を認識しながら、その変化に対応した賢い行動ができるものを指します。このセンサとして、これまで最も盛んに研究されて来たのが人間という「眼」に相当する部分です。人間が眼で外界を認識するように、ロボットもカメラと画像処理技術で外界を認識して来ました。これに対し、本研究室では、視覚はもろんのこと力覚（触覚）をも使って、ロボットをより知能化する研究に取り組んでいます。

研究概念では、偉そうな事を申し上げておりますが、実際はこの研究室が誕生してからまだ数ヶ月しか経っていないので、地道に研究用の装置や器具を集めたり作りしている段階です。ですが、それら多くの要素を組み合わせてシステム化を達成できるようなテーマの卒業研究に取り組んでおります。このシステム化を達成できる人材が、これからの社会に大いに貢献することでしょう。

## ● OB・OG だより

### 菅野 義明さん 昭和五十一年電気工学科卒 現在…(有)菅野無線電機商会勤務



同窓生の皆様こんにちは。昭和五十一年三月に卒業して船舶無線と船舶電装の仕事に従事しました。船舶の無線関係は郵政省（現…総務省）、電装関係は運輸省海運局の管轄下にあり諸規定も陸上のそれとは異なる点が多く戸惑いました。先輩の指導を受けながら無線関係は（社）全国船舶無線工事協会の船舶無線整備士を、電装関係は（社）日本船舶電装協会の船舶電装士や航海リーダー整備士の資格を取得しました。

漁業の話をしみますと、当時は沖合から遠洋へと漁業界は発展を続けており、多くの三百六十トン級の北洋転換船（遠洋トロール船）が港に出入りしていました。その後「二百カイリ時代」に入り北洋漁業は打撃を受けますが、大型遠洋イカ釣船の時代が到来し八戸でも多くの船が建造されました。早出、残業当たり前の時代でした。その後「二百カイリ時代」の影響が現れ始め仕事も減り「海から陸（オカ）へ」と転換せざるを得ない状況となりました。

「海」の時にたざさわった魚群探知機やソナーの超音波技術を活かして液体・気体流量計や風向風速計、ドップラーソナー、波高・潮流観測器関連の仕事をしていきます。仕事の内容は変わりましたが、常に学び活かすということを在学中に学んだことが今日につながったと思っています。技術は時と共に変わりますが、その背景にある精神は変わらないと思います。同窓生諸氏も八戸工業大学で学んだ精神を大事にしてください。

### 梅津 正明さん

### 現在…柏電業株式会社設計・営業課長 昭和五十二年電気工学科卒

昭和四十七年に入学し、第一回生と一緒に四年間八戸工業大学で学びました。事情があり一回生より半年多めに勉強しましたが、前社長さんの計らいで卒業して下さいました。その甲斐あって、無事二回生として卒業する事が出来ました。その後現場で電気工事とは何たるかを三年間程勉強した後、現在では設計と営業の仕事が主体となって頑張っております。昭和五十四年当時、八戸市内の業者で一億円以上の工事を一社で請け負うことは珍しく、ほとんどは大企業しか出来ませんでした。し



知機やソナーの超音波技術を活かして液体・気体流量計や風向風速計、ドップラーソナー、波高・潮流観測器関連の仕事をしていきます。仕事の内容は変わりましたが、常に学び活かすということを在学中に学んだことが今日につながったと思っています。技術は時と共に変わりますが、その背景にある精神は変わらないと思います。同窓生諸氏も八戸工業大学で学んだ精神を大事にしてください。

かし、八戸グランドホテル様の新築工事でおおよそ一億五千万円位だったと思いますが、柏電業が初めて一社で請け負わせて頂きました。その甲斐あって、八戸市や県で、地元業者でも大型工事が出る事がわかり、徐々に地元から大きな工事を発注してくれるようになりました。また、三沢米軍基地内の高層住宅や、市内の小、中学校などの電気工事に携わることが自分の自信と財産となっています。柏電業に入社して二十九年目ですが、私はこの会社に入社して本当に良かったと思っています。大企業でバリバリ働くもよし、中小企業でも自分の好きな仕事をするのも良いのではないのでしょうか。今は八戸の建設業界も不況で大変ですが、これから就職する卒業生の皆さんには一層努力して欲しいと思います。八戸工業大学で学んだことを誇りに思っ頑張らしましょう。最後になりましたが、諸先生方には色々ご指導いただきまして誠に有り難う御座いました。これからも優秀な人材を沢山送り出して下さい。

修了した卒業生が国内外でますます活躍することを期待しています。学科長 藤田 成隆(教授)

【新任教員紹介】



神原 利彦  
助教  
学位：博士  
(工学)

出身大学：大阪大学大学院  
専門：知能ロボット、ロボット制御、画像処理、人工知能、仮想現実



柴田 幸司  
講師  
学位：博士  
(工学)

出身大学：青山学院大学大学院  
専門：電子回路、情報通信工学、電波応用光学、計算電磁気学  
E-mail: shibata@hi-tech.ac.jp

【配置換え】



安藤 浩司  
講師 (システム情報工学科より)

■ 学科近況報告  
電気・電子・情報通信および  
その関連分野において  
私大初の J A B E E 認定！  
本学科の教育プログラムが「電気・電子・情報通信およびその関連分野」で全国の私立大学では初めて J A B E E 認定を受けまし

学位：工学博士  
出身大学：東北大学大学院  
専門：生体情報工学、画像処理応

用工学  
E-mail: hydra@hi-tech.ac.jp  
馬場 誠  
主任技師  
(図書館より)  
E-mail: mbaba@hi-tech.ac.jp

八戸工業大学地域  
情報メディアセンター  
建設に向けてなお一層の  
ご理解、ご協力を

本学創立30周年ならびに大学院完成記念事業の一環として進めて居ります「八戸工業大学地域情報メディアセンター」の建設資金の一部として、卒業生を初め関係各位にご寄付をお願い申し上げます。たところ、その趣意にご賛同の多くの皆様から貴重なご厚志を御寄せ戴き誠に有り難うございました。お陰様で、同センターの建設場所が決定し、イメージ設計に着手しているところでございます。しかしながら、この事業を実現するためには、皆様からの一層のご理解、ご協力が不可欠でありまして、ご協力をお願い申し上げます。ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

八戸工業大学学長 高橋 燦吉  
八戸工業大学 同窓会会長 白川 直人

第四回 同窓会総会開催案内

来る十月二十三日(土)、第四回八戸工業大学同窓会総会を開催いたします。

同窓会総会は昨年と同様に第一部・講演会、第二部・同窓生の集う会の二部構成で行われます。

第一部の講演会では、今年度は講演者として八戸工業大学OB(電気昭和五十二年卒)で現在、青森県立五所川原工業高等学校教頭の淺利能之氏に依頼し、「工業高校教育これまでの十年これから業と大学へのお願い」という演題で講演していただきます。

ふるってご参加ください。  
さらに十月二十三日(土)と十月二十四日(日)の両日は、八戸工業大学の学園祭も行われております。ご家族とご一緒にお出でなられても楽しい休日をご過ごせるかと思えます。  
同窓会総会への参加申し込みは、同封のハガキ「同窓会参加通知書&会員状況異動届」にて、十月十五日(金)までにご連絡ください。またご質問等につきましては、各学科事務局までEメールもしくは電話にてお問い合わせください。

同窓会事務局の連絡先(各種連絡先としてご利用ください)

事務局名	TEL	E-mail
本部事務局 (学生部学生課)	0178-25-8027	dosokai@hi-tech.ac.jp
機械・産業機械工学科 (機械情報技術学科事務室)	0178-25-8010	dosokai-m@hi-tech.ac.jp
電気工学科 (電気電子工学科、電子知能システム学科事務室)	0178-25-8020	dosokai-e@hi-tech.ac.jp
土木工学科 (シビル会事務局)	0178-25-8058 (8030)	dosokai-c@hi-tech.ac.jp
建築工学科 (建築工学科事務室)	0178-25-8040	dosokai-a@hi-tech.ac.jp
エネルギー工学科 (エネルギー工学科、生物環境化学工学科事務室)	0178-25-8050	dosokai-p@hi-tech.ac.jp
システム情報工学科 (システム情報工学科事務室)	0178-25-8080	dosokai-i@hi-tech.ac.jp